

第63回土木学会特別イブニングシアター 開催報告

第24回土木学会映画コンクール最優秀賞『アフガンに命の水を』上映／ペシヤワール会現地代表 中村哲医師講演／中村哲医師・高橋裕先生対談

関連記事：「わたしの本棚(135頁)」

情報資料部門土木技術映像委員会

去る2011年11月12日(土)、東京文京区の中央大学後楽園キャンパスにおいて土木技術映像委員会主催・中央大学理工学研究所共催の特別イブニングシアターを開催した。63回目となる今回は特に、第24回土木学会映画コンクール最優秀賞を受賞した『アフガンに命の水を』上映に加え、医師でありながら用水路建設に携わるペシヤワール会現地代表の中村哲医師による講演、さらには中村哲医師と土木学会名誉会員で東京大学名誉教授の高橋裕先生による異色の対談の3部構成で実施した。参加者は約300名(関係者含む)におよび、土木学会会員が全体の4分の1で、そのほかにはイブニングシアター上映会登録メンバーやペシヤワール会会員その他の一般市民の方々が4

に今後とも同様の企画を望む声が多数あった。以下にその声の一部を紹介する。

(1) 映画上映

第1部の学会最優秀賞『アフガンに命の水を』上映に対しては、「中村哲医師がアフガニスタンで進めておられる事業は、断片的に知っていましたが、本映画を拝見してよく理解できました。改めて、大変立派なお仕事をなさっていることに感動しました。」(60代)「心がふるえ、体の芯に熱いものが生じた。偏向した知識を修復することができた。」(50代)「ペシヤワール会の活動については聞いていたが、実際に映像で見てその哲学とスケールに非常に感銘を受けた。地域のニーズを汲み取るとは口で言っても行うのはどれだけ難しいかとおもう。そして困難な状況の中で決めた目標を完遂するその意志の力と実行力に心から敬服する。」(50代)「アフガンの病気は治療が根本的な解決策ではないと考え、医者と云う立場にありながら治水事業を実施する事を思いつき、実行に移したことに感銘を受けました。また、現地で対応可能な工法を日本の技術から学び、更



写真1 第63回土木学会特別イブニングシアター・ポスター

分の3を占め、女性の参加者も100名弱と、中央大学の大教室がほぼ満席となる盛況であった。

参加者の声

会場やネットを通じて行ったアンケートの回答数は115名で参加者全体のおよそ40%にあたる高い回収率となり、長文の回答も多く寄せられ、関心の高さがうかがえた。年齢構成では60代以上が5割、40代と50代が2割、30代以下が1割となっており、職業分野別では土木関係が2割強、参加回数別では初めて参加された方が8割弱という結果であった。今回の企画に関しては、肯定的な意見が過半を占め、一部に運営の不備などの指摘もあったが、おおむね賛意を表されるとも

に、高めて人力では困難な岩掘削を行うなどを拝見して感動しました。」(40代)「職種にこだわらず、人を救うという一点に関して貫か

れている中村氏が、多くの人を救うためのソリューションとして河川整備を選択し、実際に行われた映像から、土木分野の途上国における重要性を再認識しました。」(20代)といったコメントが寄せられた。

(2) 講演

第2部の中村哲医師講演に対しては、「講演では苦労話を自慢話でなく客観的に「ほくとつ」として話されていたのは印象的。アフガニスタンの人たちの不幸な境遇とこれに対する日本と日本からの貢献が貴重な理由が理解できた。また主として日本の治水技術とくに現代の技術ではなく江戸時代の技術が役立つということがわかり土木に限らず技術の歴史の保存と理解が貴重であることと認識した。」(60代)、「小柄な方で、静かな語り口ではあったが、隠しようのない堂々たる姿と強い信念がとても印象的であった。」(30代)、「医療がご専門の中村先生の『アフガンには百の診療所よりも1本の用水路が必要』とのお言葉が最も印象深かった。我々土



写真2 熱気あふれる会場 —中央大学・大教室を埋め尽くした会員・一般市民の方々—

木技術者の役割を再認識させていただける有難いお言葉である一方、土木屋自らがそれに気付き、行動できなかったことに自責の念を禁じえない。現地に入り、現地の人々の立場に立つてはじめて、何をすべきかがはつきりと理解できるといふことを中村先生が身をもってお示しただけだと思う。(40代)、「実際に「海外」「土木」の2つを兼ねた現場で貢献されている方のお話の為、非常に興味深く拝聴させて頂きました。教授とは違った角度のお話が聴け、非常に楽しめました。」(20代)などのコメントがあった。

(3) 対談

第3部の高橋裕先生との対談に対しては、「高橋先生も柔軟な考えの持ち主であった。いい対話だった。中村医師のたとえ乾燥地帯であろうとも数千年、数万年の中で人の暮らしを築いていけばそれでもいいという自然な意欲の吐露に感銘を受けた。」(60代)、「日本

の昔の治水家達は、本当に素晴らしかったんだということをお伝えされました。高橋教授が、「江戸時代の技術の方が自然にあつてた。川の特徴、本性をよく知っていた。」と語られたことが、とても印象に残っています。」(30代)、「日本の治水技術の高さや他国での応用が可能であることを河川技術者と医者との間で交わされたことに驚きを感じました。」(40代)、「中村先生が、アフガンに適用可能な治水技術として、我が国の伝統的な技術である斜め堰・蛇籠(布田籠)等々を非常に勉強され、現地に上手く適用された感じは、まさに技術者そのものであると感じた。また、高橋先生の『我々は鉄筋コンクリートという強靱な武器を手に入れたばかりに力に対抗しようとし、川の本性を学び・見極めようとする努力を怠るようになってしまった。』というお言葉が印象深かった。」(40代)、「子どもは学校で玉川上水の勉強を終え、たまたま知った中村先生の用水路建設について調べております。対談の中で、昔の技術は自然と共生していたという表現に、そうか〜と納得しました。(後略)」(40代)、などの意見が寄せられた。

当委員会では年6回の定例イベントシアターの開催と全国大会映画会や市民向け上映会などを引き続き計画しており、多くの一般の方々に参加を呼びかけ、映像を通じた土木への理解をより一層深めていただくよう働きかける予定である。詳細は土木技術映像委員会ホームページをご覧ください。

お知らせ

平成24年度定時総会(通算第98回)のお知らせ

平成24年度定時総会を下記のとおり開催いたしますので、お知らせいたします。

日時

2012年6月14日(木)

13:15~19:00(受付開始12:15)

場所

ホテルメトロポリタンエドモント

(東京都千代田区飯田橋3-10-8、

TEL:03-3237-1111(代)

次第

1. アンサンブルシヴィル演奏…

13:15~13:30

2. 特別講演…13:40~14:25

題目:「責任」と「寛容」—学会活動を

通して見た社会の動き—

講演者…丸山久一(理事、長岡技術科

学大学教授)

3. 総会…14:40~17:00

表彰等…名誉会員称号の授与、土木学

会賞の授与

議案審議…会長報告、平成23年度事業

報告・決算報告、平成24年度事業計画・収

支予算、理事及び監事選任(臨時理事

会…正副会長の選任 16:25~16:35)

新旧会長挨拶、新旧役員紹介…16:35

~17:00

4. 交流会…17:30~19:00

(会費…3000円)

総会開催にあたってのお願い

・総会は会員組織である本会の最高議決機関でありますので、正会員の皆様には、総会へのご出席をお願いいたします。

・総会の成立には、正会員の過半数の出席(または委任状)が必要です(定款第17条)。総会にご出席いただけない場合は、5月下旬にお送りする総会開催通知書に同封の委任状にご記入、署名、押印の上、必ずご提出くださいますようお願いいたします。